

【プレゼンテーション資料】

**2018年度第3四半期（9カ月累計） 連結業績
およびソニー生命の2018年12月末MCEV**

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
2019年2月13日

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

＜カンファレンスコール(電話会議)による決算説明会＞

日時 : 2019年2月13日 (水) 15:30～16:30

内容 : 「2018年度第3四半期（9カ月累計）連結決算説明会」

発表者 : ソニーフィナンシャルホールディングス

常務取締役 清宮 裕晶

ソニーフィナンシャルホールディングス
清宮 でございます。

ただ今より、お手元のプレゼンテーション資料に沿って、当社グループの
2018年度 第3四半期連結業績についてご説明いたします。

スライド4をご覧ください。

■ 2018年度第3四半期（9カ月累計）連結業績	P. 3
■ 2018年度 連結業績予想	P. 24
■ ソニー生命の2018年12月末MCEVおよびESR	P. 26
■ 参考情報	P. 29

免責事項：

このプレゼンテーション資料に記載されている、ソニーフィナンシャルグループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、過去の事実でないものは、将来の業績に関する見通しや試算です。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「想定」、「予測」、「予想」、「目的」、「意図」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの見通しまたは試算に関する情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーフィナンシャルグループの経営者の仮定、決定ならびに判断に基づいています。実際の業績は、多くの重要なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、ソニーフィナンシャルグループが将来の見通しや試算を見直して改訂するとは限りません。ソニーフィナンシャルグループはそのような義務を負いません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わずいかなる投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものでもありません。

※本資料掲載情報は、特に記載のない限り、数値は表示単位未満は切捨て、比率や増減率は四捨五入で表示。

また、増減率が1,000%を超える場合や比較対象の一方もしくは両方がマイナスの場合は「-」表示。

※「ライフプランナー」はソニー生命の登録商標。

2018年度第3四半期（9カ月累計） 連結業績

- FY18.3Q(9M)連結業績：前年同期比 減収(Δ 4.0%)、増益(+49.5%)
 - ・ 経常収益：主に生命保険事業における特別勘定運用損益の悪化により、減収
損害保険事業および銀行事業は増収
 - ・ 経常利益：生命保険事業、損害保険事業および銀行事業のすべての事業において
増加した結果、増益
- 営業業績：引き続き3事業とも着実に業容を拡大
ソニー生命では、家族収入保険の契約獲得が好調に推移
- 通期業績予想：主に生命保険事業のFY18.3Q(9M)業績が期初の想定と乖離して進捗した
ことを受け、2018年4月27日の公表値を修正
 - ・ 経常収益：1兆5,300億円 (前回公表値比 Δ 3.0%)に下方修正
 - ・ 経常利益：920億円 (同+10.8%)に上方修正
 - ・ 親会社株主に帰属する当期純利益：600億円 (同+9.1%)に上方修正
- 経済価値ベースの指標
 - ・ 12月末のMCEVは、1兆6,646億円。円金利の低下などにより、前四半期末に比べ減少
 - ・ FY18.3Q(3M)の新契約価値は237億円。着実な新契約獲得により前四半期に比べ増加

当社グループの2018年度第3四半期 決算のポイントについてご説明いたします。

連結業績は、前年同期比で減収増益となりました。経常収益は、主に生命保険事業において、市場環境の悪化にともない、特別勘定運用損益が悪化したことにより、減収となりました。経常利益は、生命保険事業、損害保険事業および銀行事業のすべての事業において増加し、増益となりました。

ソニーフィナンシャルグループでは、3事業とも着実に業容を拡大し、ソニー生命においては、引き続き家族収入保険の契約獲得が好調に推移しました。

なお、2018年度第3四半期までの9カ月間の業績が期初の想定と乖離して進捗したことを受け、2018年度通期の業績予想を修正しました。経常収益は下方修正、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益は上方修正しました。詳細については後ほどご説明します。

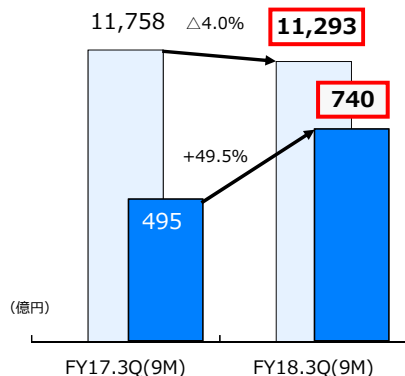
また、MCEVは円金利の低下などにより前四半期末から減少しましたが、新契約価値は、着実な新契約獲得により、前四半期3カ月間より増加しました。

スライド5をご覧ください。

連結業績ハイライト

<グループ連結>

□ 経常収益 ■ 経常利益



		(億円)	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)	前年同期比	
生命保険事業	経常収益		10,621	10,066	△555	△5.2%
	経常利益		402	601	+199	+49.5%
損害保険事業	経常収益		824	862	+38	+4.7%
	経常利益		50	73	+23	+46.7%
銀行事業	経常収益		296	337	+41	+13.9%
	経常利益		50	70	+19	+38.7%
その他*	経常収益		15	26	+10	+66.1%
	経常利益		△8	△5	+2	-
グループ連結	経常収益		11,758	11,293	△465	△4.0%
	経常利益		495	740	+245	+49.5%
	親会社株主に 帰属する 四半期純利益		424	504	+80	+18.8%

* 持株会社（連結財務諸表提出会社）、介護事業及びベンチャーキャピタル事業にかかる損益と内部取引調整。
FY17.2Qよりブラウドライブ、FY18.2Qよりソニーフィナンシャルベンチャーズを含む。

(注) 包括利益：FY17.3Q(9M)・・・486億円、FY18.3Q(9M)・・・385億円

		(億円)	18.3末	18.12末	前年度末比	
グループ連結	純資産		6,254	6,379	+125	+2.0%
	総資産		124,014	131,439	+7,424	+6.0%

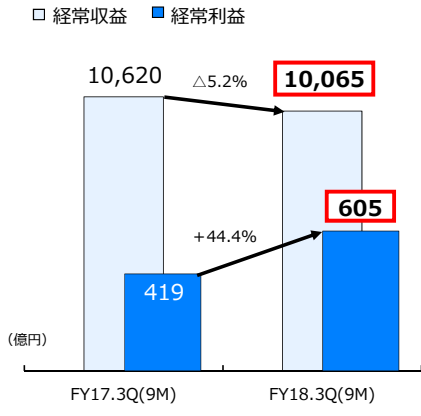
当社グループの連結業績についてご説明いたします。

経常収益は、前年同期に比べ4.0%減少の1兆1,293億円、
経常利益は、前年同期に比べ49.5%増加の740億円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、経常利益が増加したことにより、
前年同期に比べ18.8%増加の504億円となりました。

スライド6をご覧ください。

ソニー生命 業績ハイライト (単体)



- ◆ 前年同期比 減収増益。
- ◆ 保険料等収入は、保有契約高の堅調な推移などにより、増加。
- ◆ 資産運用収益は、特別勘定資産運用損益の悪化により、減少。
- ◆ 経常利益は、一般勘定におけるその他有価証券に係る減損損失の計上があったものの、一般勘定におけるその他有価証券に係るヘッジを目的としたデリバティブ取引の損益の改善および有価証券売却益の計上、保有契約高の拡大による利益の増加、ならびに解約の増加にともなう責任準備金負担の減少により、増益。

(億円)	FY17.3Q(9M)	FY18.3Q(9M)	前年同期比	
経常収益	10,620	10,065	△555	△5.2%
保険料等収入	7,628	8,158	+529	+6.9%
資産運用収益	2,543	1,454	△1,088	△42.8%
うち利息及び配当金等収入	1,177	1,244	+66	+5.6%
うち有価証券売却益	0	45	+45	-
うち為替差益	28	131	+103	+368.8%
うち特別勘定資産運用益	1,301	-	△1,301	△100.0%
経常費用	10,201	9,459	△741	△7.3%
保険金等支払金	3,286	3,443	+157	+4.8%
責任準備金等繰入額	5,243	4,236	△1,006	△19.2%
資産運用費用	286	324	+37	+13.0%
うち有価証券評価損	-	40	+40	-
うち金融派生商品費用	239	7	△232	△96.7%
うち特別勘定資産運用損	-	227	+227	-
事業費	1,029	1,071	+42	+4.1%
経常利益	419	605	+186	+44.4%
固定資産等処分益	132	-	△132	△100.0%
四半期純利益	375	415	+40	+10.7%

(億円)	18.3末	18.12末	前年度末比	
有価証券残高	87,659	92,744	+5,084	+5.8%
責任準備金残高	85,660	89,893	+4,232	+4.9%
純資産	4,927	5,000	+72	+1.5%
その他有価証券評価差額金	1,249	1,168	△81	△6.5%
総資産	95,676	101,132	+5,455	+5.7%
特別勘定資産	11,288	11,672	+384	+3.4%

ソニー生命の業績のハイライトをご説明いたします。

経常収益は、保有契約高の堅調な推移などを受けた保険料等収入の増加があったものの、特別勘定における運用損益の悪化により、前年同期に比べ5.2%減少の1兆65億円となりました。

経常利益は、一般勘定におけるその他有価証券に係る減損損失の計上があったものの、一般勘定におけるその他有価証券に係るヘッジを目的としたデリバティブ取引の損益の改善および有価証券売却益の計上、保有契約高の拡大による利益の増加、ならびに解約の増加にともなう責任準備金負担の減少により、前年同期に比べ44.4%増加の605億円となりました。

四半期純利益は、前年同期に比べ10.7%増加の415億円となりました。

スライド7では、ソニー生命の主要業績指標を記載しております。続きまして、スライド8をご覧ください。

ソニー生命 主要業績指標 (単体)

(億円)	FY17.3Q(9M)	FY18.3Q(9M)	前年同期比
新契約高	34,454	45,953	+33.4%
解約・失効高	13,303	22,222	+67.0%
解約・失効率	2.94%	4.71%	+1.77pt
新契約年換算保険料	519	569	+9.8%
うち第三分野	93	111	+19.3%

(億円)	FY17.3Q(9M)	FY18.3Q(9M)	前年同期比
資産運用損益 (一般勘定)	954	1,358	+42.3%
基礎利益	706	637	△9.8%
順ざや額	139	140	+0.7%

(億円)	18.3末	18.12末	前年度末比
保有契約高	472,534	488,940	+3.5%
保有契約年換算保険料	8,488	8,711	+2.6%
うち第三分野	1,918	1,960	+2.2%
単体 ソルベンシー・マージン比率	2,624.3%	2,684.7%	+60.4pt

<主な増減要因>

◆ 家族収入保険の販売が好調であったことにより、増加。

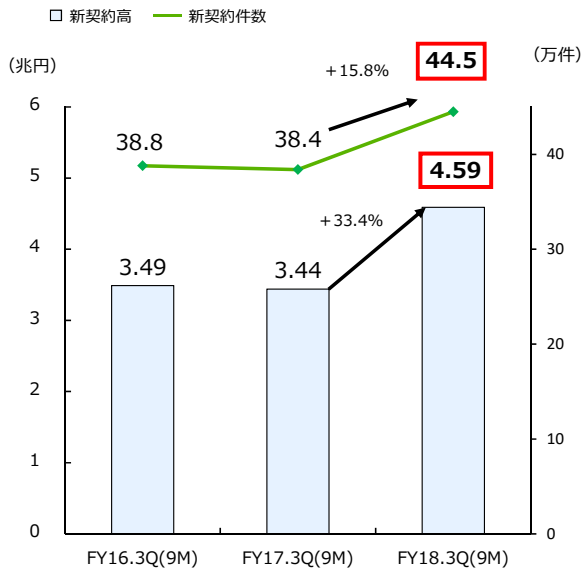
◆ 標準生命表改定にともない料率改定を行った家族収入保険などの加入に際し、一部のお客さまが既契約を解約されたことにより、増加。

◆ 個人年金保険、米ドル建保険の販売が好調であったことにより、増加。

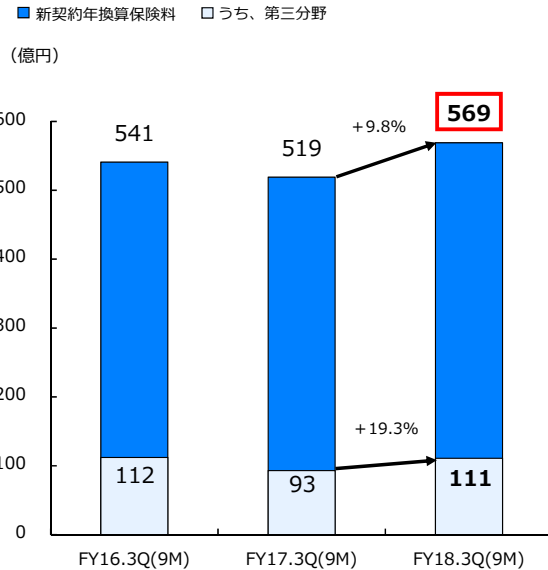
◆ 保有契約高の拡大による利益の増加および解約の増加にともなう責任準備金負担の減少があったものの、市場環境の悪化により、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額が増加したことから、減少。

(注) 新契約高、解約・失効高、解約・失効率、新契約年換算保険料、保有契約高、保有契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計。解約・失効率は、契約高の減額または増額および復活を含めない解約・失効高を年度始の保有契約高で除した率。

新契約高・件数（個人保険+個人年金保険）



新契約年換算保険料（個人保険+個人年金保険）



（左側のグラフ）

棒グラフで示しております新契約高は、家族収入保険の販売が好調であったことにより、前年同期に比べ33.4%増加の4兆5,953億円となりました。当四半期9カ月間の新契約高は、第三四半期9カ月間として過去最高を更新しました。

また、折れ線グラフで示しております新契約件数は、前年同期に比べ15.8%増加の44.5万件となりました。

（右側のグラフ）

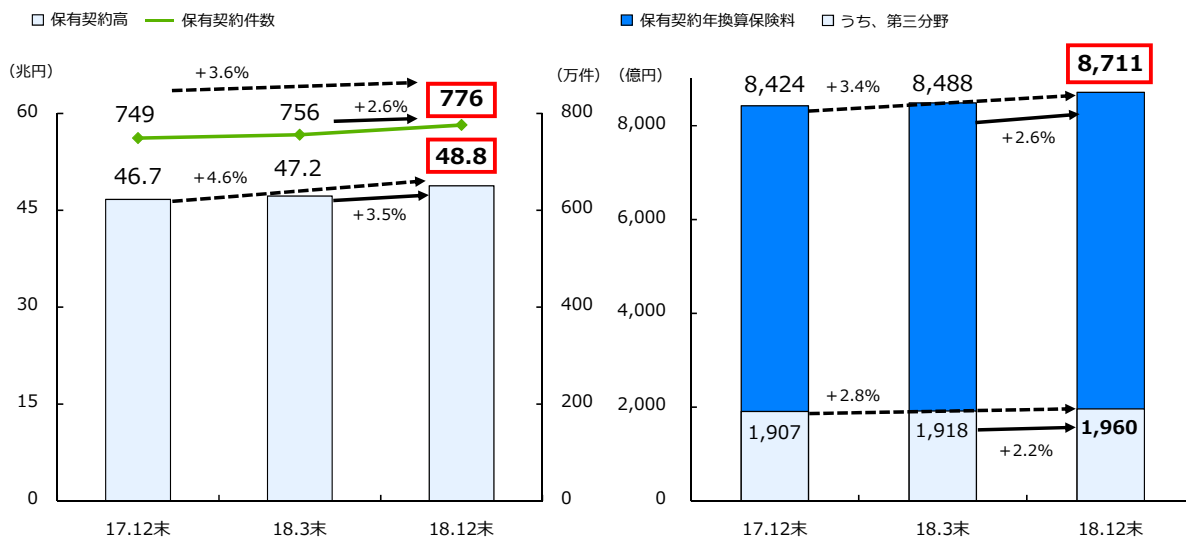
新契約年換算保険料は、個人年金保険、米ドル建保険の販売が好調であったことにより、前年同期に比べ9.8%増加の569億円となりました。

このうち第三分野は、前年同期に比べ19.3%増加の111億円となりました。

次のスライドをご覧ください。

保有契約高・件数（個人保険＋個人年金保険）

保有契約年換算保険料（個人保険＋個人年金保険）



新契約および解約・失効などを織り込んだ保有契約の状況について、ご説明いたします。

（左側のグラフ）

棒グラフで示しております保有契約高は、前年度末に比べ3.5%増加の48兆8千億円となりました。

折れ線グラフで示しております保有契約件数は、前年度末に比べ2.6%増加の776万件となりました。

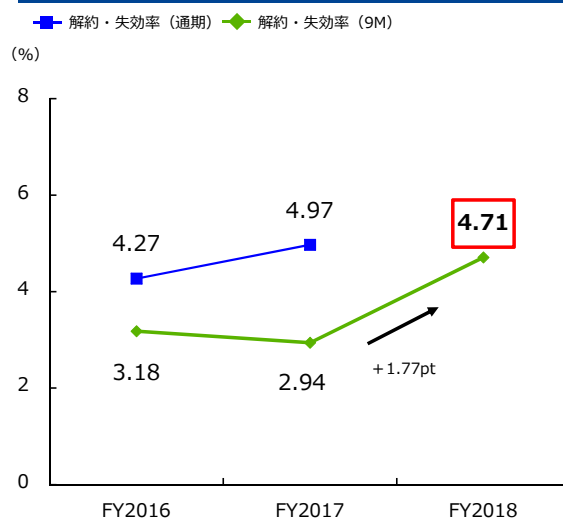
（右側のグラフ）

保有契約年換算保険料は、前年度末に比べ2.6%増加の8,711億円となりました。

このうち第三分野は、前年度末に比べ2.2%増加の1,960億円となりました。

次のスライドをご覧ください。

解約・失効率*（個人保険+個人年金保険）



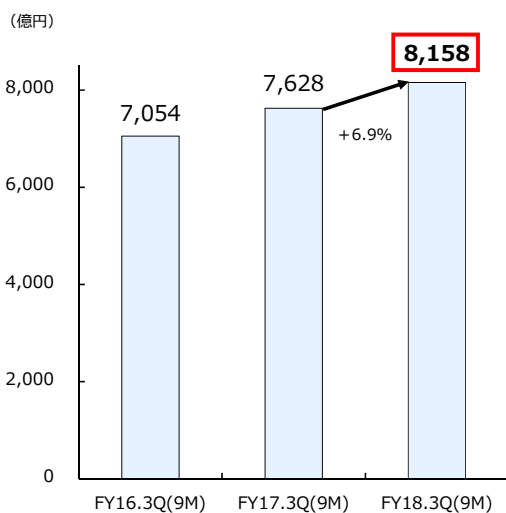
* 解約・失効率は、契約高の減額または増額および復活を含めない解約・失効高を年度始の保有契約高で除した率。

解約・失効率は、前年同期に比べ1.77ポイント上昇の4.71%となりました。

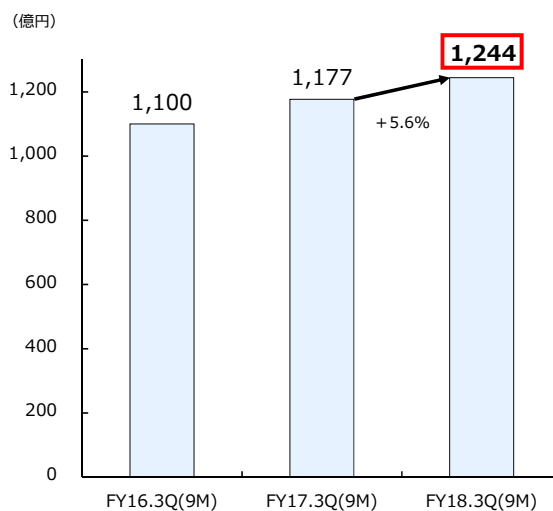
解約・失効率の上昇の主な要因は、標準生命表改定にともない料率改定を行った家族収入保険などの加入に際し、一部のお客さまが既契約を解約されたことによるものです。

次のスライドをご覧ください。

保険料等収入



利息及び配当金等収入



（左側のグラフ）

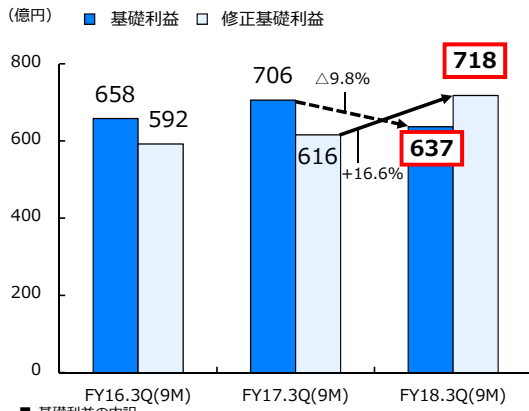
保険料等収入は、保有契約高の堅調な推移などにより、前年同期に比べ6.9%増加の8,158億円となりました。

（右側のグラフ）

利息及び配当金等収入は、業容拡大による運用資産の増加にともない、前年同期に比べ5.6%増加の1,244億円となりました。

次のスライドをご覧ください。

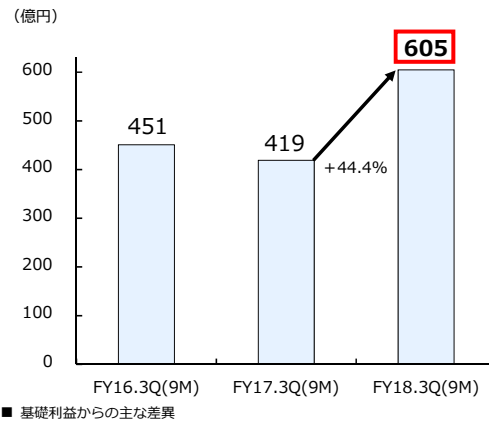
基礎利益と修正基礎利益



(億円)	FY16.3Q(9M)	FY17.3Q(9M)	FY18.3Q(9M)
順ざや額	111	139	140
変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額(△)(注1)	△45	△48	△221
修正基礎利益(注2)	592	616	718

(注1) 変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額、危険準備金繰入額のマイナスは繰入額。キャピタル損益は、変額保険に係るヘッジ損益を除く。
 (注2) 修正基礎利益 = 基礎利益 - 順ざや額 - 変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額

経常利益



(億円)	FY16.3Q(9M)	FY17.3Q(9M)	FY18.3Q(9M)
キャピタル損益(ヘッジ損益除く)(注1)	0	△94	16
変額保険に係るヘッジ損益	△142	△135	16
危険準備金繰入額(△)(注1)	△62	△56	△63

(左側のグラフ)

基礎利益は、保有契約高の拡大による利益の増加および解約の増加にともなう責任準備金負担の減少があったものの、市場環境の悪化により、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額が増加したことから、前年同期に比べ9.8%減少の637億円となりました。

基礎利益から、順ざや額と変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額を除いた、保険引受に関する利益に相当する修正基礎利益は、前年同期に比べ16.6%増加の718億円となりました。

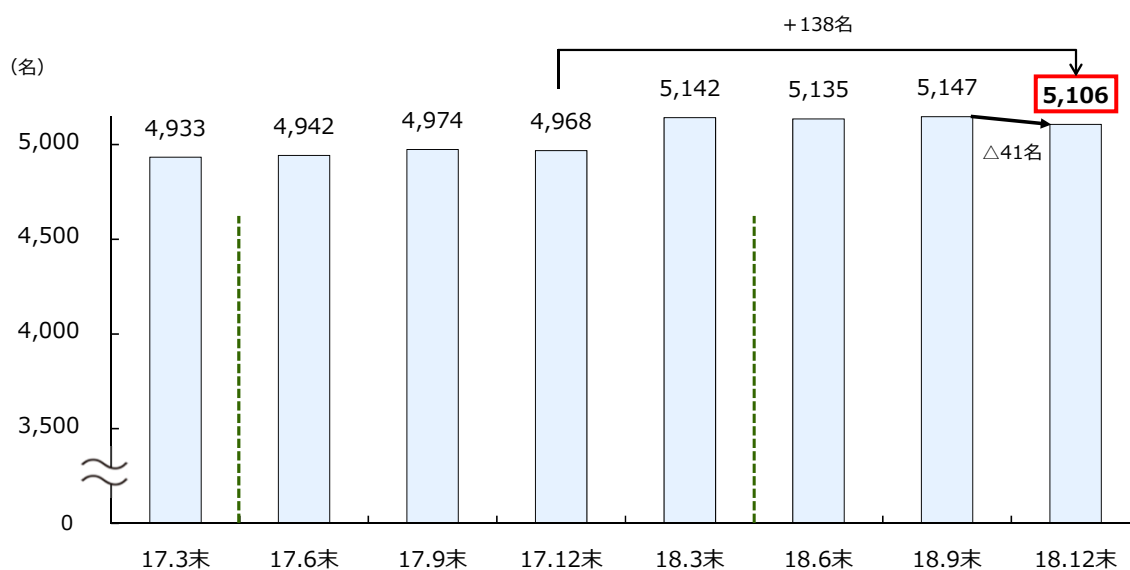
(右側のグラフ)

経常利益は、前年同期に比べ44.4%増加の605億円となりました。

これは、変額保険に係るヘッジ目的のデリバティブ取引により、前述の基礎利益の減少が相殺されたことに加え、その他有価証券に係るヘッジ目的のデリバティブ取引の損益が改善したことや、有価証券売却益を計上したことによるものです。

次のスライドをご覧ください。

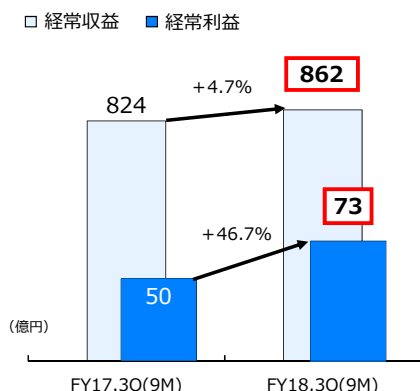
ライフプランナー在籍数



ライフプランナー在籍数は、前四半期末から41名減少、前年同期末から138名増加し、5,106名となりました。

毎年、第3四半期末時点のライフプランナー数は、10月にライフプランナーから営業所長への登用があることに加え、12月は新規採用をする月ではないことから、直前四半期末に比べて減少する傾向にあります。

続きまして、ソニー損保の業績をご説明いたします。
スライド14をご覧ください。



(億円)	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)	前年同期比	
経常収益	824	862	+38	+4.7%
保険引受収益	810	847	+36	+4.5%
資産運用収益	13	15	+1	+13.0%
経常費用	773	789	+15	+2.0%
保険引受費用	567	584	+16	+2.9%
営業費及び一般管理費	206	204	△1	△0.7%
経常利益	50	73	+23	+46.7%
四半期純利益	36	52	+16	+44.3%

- ◆ 前年同期比 増収増益。
- ◆ 経常収益は、主力の自動車保険で正味収入保険料が増加したことにより、増収。
- ◆ 経常利益は、事業費率の低下や増収効果などにより、増益。

(億円)	18.3末	18.12末	前年度末比	
責任準備金残高	1,170	1,247	+76	+6.6%
純資産	331	353	+21	+6.5%
総資産	2,043	2,104	+61	+3.0%

ソニー損保の経常収益は、主力の自動車保険で正味収入保険料が増加したことにより、前年同期に比べ4.7%増加の862億円となりました。

経常利益は、事業費率の低下や増収効果などにより、前年同期に比べ46.7%増加の73億円となりました。

四半期純利益は、前年同期に比べ44.3%増加の52億円となりました。

スライド15、16では、ソニー損保の主要業績指標、種目別保険引受の状況を記載しております。後ほどご覧ください。

続きまして、スライド17から、ソニー損保の業績の詳細をご説明いたします。

ソニー損保 主要業績指標

(億円)	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)	前年同期比
元受正味保険料	800	839	+4.8%
正味収入保険料	810	846	+4.5%
正味支払保険金	385	420	+9.1%
保険引受利益	37	59	+58.3%
正味損害率	54.4%	56.7%	+2.3pt
正味事業費率	27.1%	25.7%	△1.4pt
コンバインド・レシオ	81.5%	82.4%	+0.9pt

<主な増減要因>

◆ 主力の自動車保険の契約獲得が順調に推移。

◆ 自然災害の影響で保険金支払が増加したことにより、上昇。

◆ システム関連費用などが減少したことにより、低下。

(注) 正味損害率 = (正味支払保険金 + 損害調査費) ÷ 正味収入保険料
 正味事業費率 = 保険引受に係る事業費 ÷ 正味収入保険料

	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)	前年同期比
E.I 損害率	61.8%	61.5%	△0.3pt
E.I 損害率 + 正味事業費率	88.9%	87.2%	△1.7pt

◆ 支払備金繰入額が減少したことなどにより、低下。

(注) E.I 損害率 = (正味支払保険金 + 支払備金繰入額 + 損害調査費) ÷ 既経過保険料
 [除く地震保険、自賠責保険]

	18.3末	18.12末	前年度末比
単体 ソルベンシー・マージン比率	782.1%	872.5%	+90.4pt

ソニー損保 種目別保険引受の状況

元受正味保険料

(百万円)	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)	増減率
火 災	148	244	+64.5%
海 上	-	-	-
傷 害	6,515	6,576	+0.9%
自 動 車	73,379	77,103	+5.1%
自 賠 責	-	-	-
合計	80,043	83,924	+4.8%

正味収入保険料

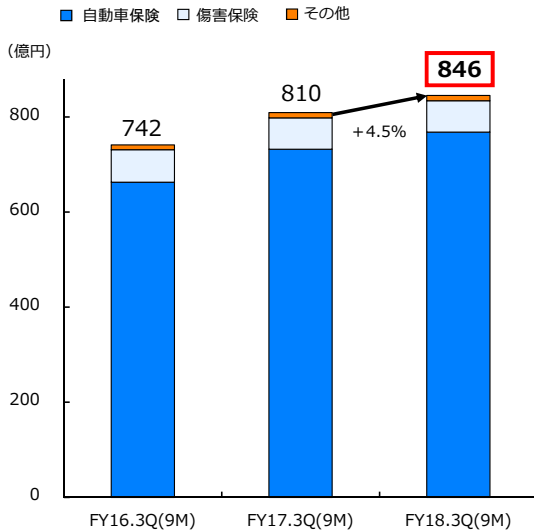
(百万円)	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)	増減率
火 災	11	68	+502.5%
海 上	0	△0	-
傷 害	6,671	6,653	△0.3%
自 動 車	73,200	76,865	+5.0%
自 賠 責	1,132	1,110	△1.9%
合計	81,016	84,699	+4.5%

正味支払保険金

(百万円)	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)	増減率
火 災	5	11	+102.0%
海 上	2	10	+273.5%
傷 害	2,029	2,218	+9.3%
自 動 車	35,501	38,760	+9.2%
自 賠 責	995	1,030	+3.5%
合計	38,534	42,031	+9.1%

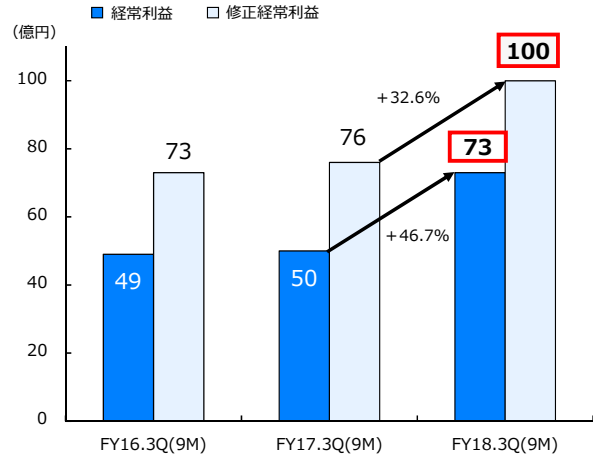
(注) 「傷害」には医療保険を含む。

正味収入保険料



(注) 傷害保険の正味収入保険料の大部分が医療保険。

経常利益と修正経常利益



※修正経常利益 = 経常利益 + 異常危険準備金繰入額

■ 異常危険準備金繰入状況

(億円)	FY16.3Q (9M)	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q(9M)
異常危険準備金繰入額	23	25	26

(注) 異常危険準備金繰入額のプラスは繰入額。

(左側のグラフ)

正味収入保険料は、主力の自動車保険の契約獲得が順調に推移したことから、前年同期に比べ4.5%増加の、846億円となりました。

(右側のグラフ)

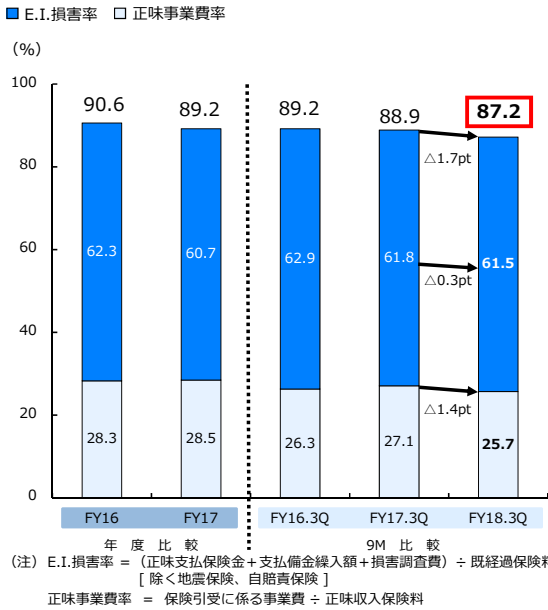
経常利益は、先のご説明のとおりです。

なお、修正経常利益は、経常利益から異常危険準備金繰入・戻入の影響を除いたもので、損益の実態を表すものとして社内で使用している管理指標です。

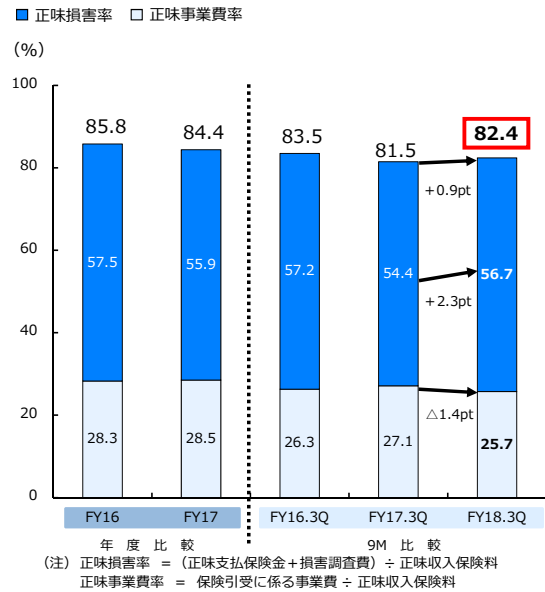
修正経常利益は、100億円となりました。

次のスライドをご覧ください。

E.I.損害率 + 正味事業費率



<参考> コンバインド・レシオ (正味損害率 + 正味事業費率)



(左側のグラフ)

E.I.損害率は、支払備金繰入額が減少したことなどにより、前年同期に比べ0.3ポイント低下し、61.5%となりました。

正味事業費率は、システム関連費用などが減少したことにより、前年同期に比べ1.4ポイント低下し、25.7%となりました。

この結果、E.I.損害率と正味事業費率を合わせた合算率は、前年同期に比べ1.7ポイント低下し、87.2%となりました。

(右側のグラフ)

正味損害率は、前年同期に比べ2.3ポイント上昇し、56.7%となりました。

なお、正味損害率は、支払備金繰入額を反映していないなどの点で、E.I.損害率とは計算方法が異なります。

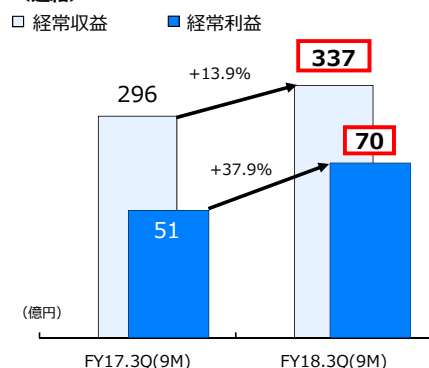
正味損害率と正味事業費率を合わせたコンバインド・レシオは、前年同期に比べ0.9ポイント上昇し、82.4%となりました。

次のスライド19から、ソニー銀行の業績についてご説明いたします。

ソニー銀行 業績ハイライト (連結・単体)



<連結>



<連結>

◆ 経常収益および経常利益は、有価証券利息の増加や、住宅ローン残高の積み上がりにもなう貸出金利息の増加により、増加。

<単体>

◆ 業務粗利益・業務純益ともに増加。資金運用収支は増加。有価証券利息や貸出金利息の増加による。

<連結>

(億円)	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)	前年同期比	
経常収益	296	337	+41	+13.9%
経常利益	51	70	+19	+37.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	33	46	+13	+40.3%

<単体>

(億円)	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)	前年同期比	
経常収益	269	305	+36	+13.4%
業務粗利益	156	179	+23	+14.9%
資金運用収支	153	172	+18	+12.4%
役務取引等収支	△24	△23	+1	-
その他業務収支	27	30	+2	+10.8%
営業経費	116	117	+0	+0.8%
業務純益	40	62	+21	+53.8%
経常利益	46	63	+17	+37.6%
四半期純利益	31	44	+12	+40.3%

(億円)	18.3末	18.12末	前年度末比	
純資産	857	841	△15	△1.8%
その他有価証券評価差額金	60	23	△36	△60.8%
総資産	26,350	28,158	+1,808	+6.9%

銀行事業の業績についてご説明いたします。

連結の経常収益は、有価証券利息の増加や、住宅ローン残高の積み上がりにもなう貸出金利息の増加により、前年同期に比べ13.9%増加の337億円となりました。

経常利益は、経常収益と同様の要因により、前年同期に比べ37.9%増加の70億円となりました。

単体につきましても、連結同様の要因により、増収増益となりました。

スライド20では、ソニー銀行の主要業績指標を記載しております。
スライド21をご覧ください。

(億円)	17.12末	18.3末	18.12末	前年度末比	
預かり資産残高	23,382	23,430	24,536	+1,105	+4.7%
預金	22,134	22,193	23,366	+1,172	+5.3%
円預金	18,470	18,147	19,315	+1,168	+6.4%
外貨預金	3,664	4,046	4,050	+4	+0.1%
投資信託	1,247	1,237	1,170	△67	△5.4%
貸出金残高	15,738	15,963	16,735	+772	+4.8%
住宅ローン	14,952	15,255	16,130	+874	+5.7%
カードローン	186	188	183	△5	△2.9%
その他	599	518	422^{*1}	△96	△18.6%
自己資本比率^{*2} (国内基準)	9.46%	10.45%	10.34%	△0.11pt	

<主な増減要因>

◆ 口座数増加にともなう新規資金の獲得や、円安局面における外貨預金の円転の影響などにより、増加。

◆ 定期預金が増加したものの、円安局面で普通預金が円転されたことにより、横ばい。

◆ 住宅ローンの着実な積み上げにより、増加。

*1 うち422億円は法人向け

*2 P.23の自己資本比率（国内基準）の推移ご参照

<参考> 社内管理ベース

(億円)	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)	前年同期比	
業務粗利益	156	179	+23	+15.0%
資金収支 ^{*1} ①	170	189	+18	+11.1%
手数料等収支 ^{*2} ②	△21	△19	+1	-
その他収支 ^{*3}	6	9	+2	+43.3%
コアベース業務粗利益(A) =①+②	149	169	+20	+13.7%
営業経費等 ③	116	117	+1	+1.4%
コアベース業務純益 = (A) - ③	33	52	+18	+56.7%

■ 社内管理ベース

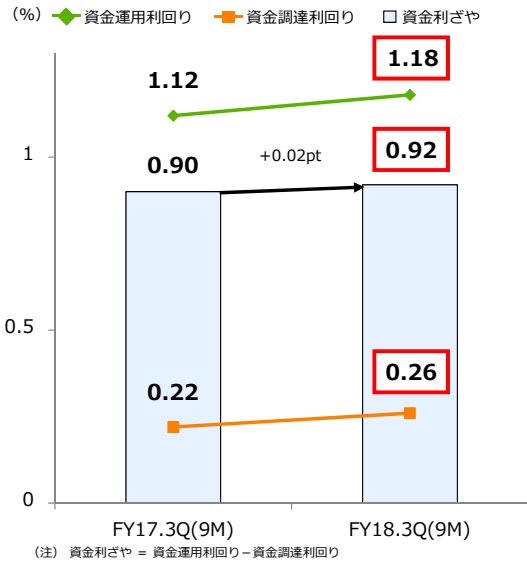
損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの

- *1 資金収支 …… 資金運用収支 + その他業務収支に計上されている実質的な資金運用にかかる損益 (為替スワップ収益等)
- *2 手数料等収支 … 役務取引等収支 + その他業務収支に計上されているお客さまとの外貨売買取引にかかる収益
- *3 その他収支 …… その他業務収支から *1 と *2 の調整分を控除したものの (主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益)

■ コアベース

社内管理ベースの その他収支 (主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益) を除いたもので、ソニー銀行の基礎的な利益を表すもの

<参考> 資金利ざや (社内管理ベース) の推移



このスライドでは、ソニー銀行の本業における収益力をより適切にご理解いただくために、社内管理ベースの業務粗利益の内訳についてご説明いたします。

(左側のテーブル)

資金収支は、有価証券利息の増加や、住宅ローン残高の積み上がりにとともなう貸出金利息の増加により、前年同期に比べ11.1%増加の189億円となりました。

手数料等収支は、前年同期比横ばいの19億円の損失となりました。

その結果、コアベース業務粗利益は、前年同期に比べ13.7%増加の169億円、コアベース業務純益は、56.7%増加の52億円となりました。

(右側のグラフ)

緑の折れ線グラフで示しております資金運用利回りは、1.18%となりました。

オレンジの折れ線グラフで示しております資金調達利回りは、

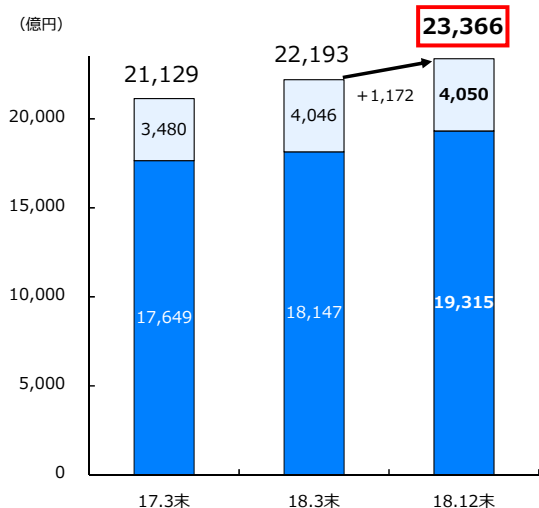
0.26%となりました。

その結果、棒グラフで示しております資金利ざやは0.92%となりました。

次のスライドをご覧ください。

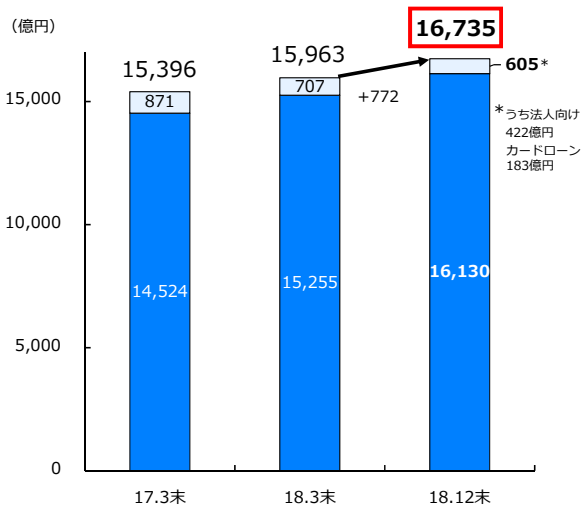
預金残高

■ 円預金 □ 外貨預金



貸出金残高

■ 住宅ローン □ その他



業容の推移について、前年度末からの増減をご説明いたします。

（左側のグラフ）

預金残高は前年度末に比べ1,172億円増加し、2兆3,366億円となりました。

うち、円預金の残高は、口座数増加にともなう新規資金の獲得や、円安局面における外貨預金の円転の影響などにより、前年度末に比べ1,168億円増加の1兆9,315億円となりました。

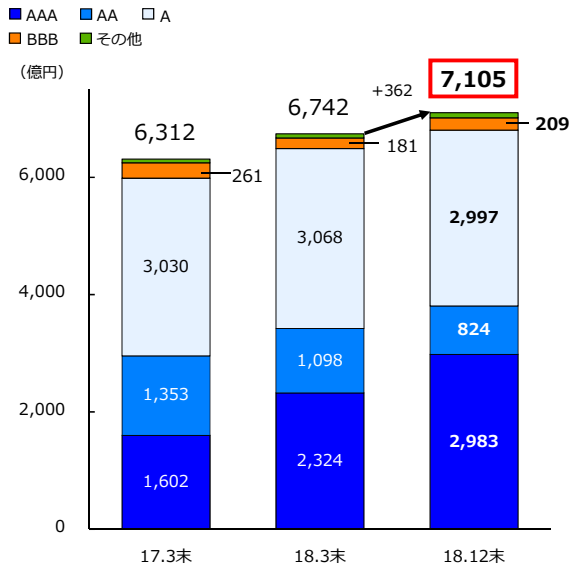
また、外貨預金の残高は、定期預金が増加したものの、円安局面で普通預金が増加したことにより、前年度末比横ばいの4,050億円となりました。

（右側のグラフ）

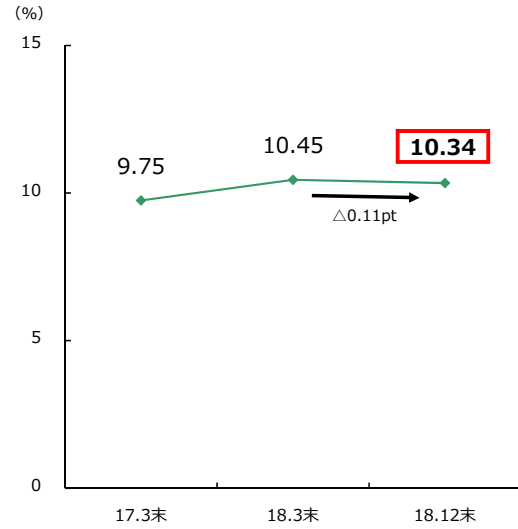
貸出金残高については、住宅ローンの着実な積み上げにより、前年度末に比べ772億円増加の1兆6,735億円となりました。

次のスライドをご覧ください。

格付別の有価証券残高の推移



自己資本比率（国内基準）の推移



(注) 平成18年(2006年)金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当かどうかを判断するための基準」に基づき算出。

(左側のグラフ)

有価証券残高は、前年度末に比べ362億円増加し、7,105億円となりました。引き続き、高格付の債券を中心に運用しております。

(右側のグラフ)

自己資本比率は、前年度末に比べ0.11ポイント低下し10.34%となりました。引き続き健全な財務基盤を維持しております。

以上で、3社の業績のご説明を終わります。続きまして、スライド25をご覧ください。

2018年度連結業績予想

2018年度連結業績予想

連結業績予想については2018年4月27日に公表した数値から通期の経常収益見通しを下方修正。
経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益見通しは上方修正。

(億円)	FY2017 (通期実績)	FY2018 (通期予想)	前年度比 (予想修正後)	FY18.3Q (9M実績)	進捗率 (予想修正後)
経常収益	15,036	15,780 ⇒ 15,300	+1.8%	11,293	73.8%
うち生命保険事業	13,512	14,161 ⇒ 13,660	+1.1%	10,066	73.7%
うち損害保険事業	1,100	1,123 ⇒ 1,150	+4.5%	862	75.0%
うち銀行事業	399	428 ⇒ 447	+11.9%	337	75.5%
経常利益	668	830 ⇒ 920	+37.6%	740	80.5%
うち生命保険事業	541	709 ⇒ 781	+44.2%	601	77.0%
うち損害保険事業	65	65 ⇒ 68	+3.4%	73	108.7%
うち銀行事業	71	70 ⇒ 83	+16.1%	70	84.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	518	550 ⇒ 600	+15.6%	504	84.1%

<各事業の経常収益・経常利益>

■生命保険事業

経常収益は、FY18.3Q(9M)実績が期初想定を下回って推移したため、下方修正。経常利益は、FY18.3Q(9M)に、一般勘定におけるその他有価証券に係る減損損失の計上があったものの、解約の増加にともない責任準備金負担が期初想定を下回ったこと、および一般勘定におけるその他有価証券に係るヘッジを目的としたデリバティブ取引の損益が期初想定を上回ったことなどから、上方修正。

■損害保険事業

経常収益は、自動車保険の保険料収入が期初想定を上回って推移したため、上方修正。経常利益は、FY18.4Q(3M)において事業費や責任準備金の繰入額の増加を見込んでいるものの、FY18.3Q(9M)累計の実績が期初想定を上回ったことにより、上方修正。

■銀行事業

経常収益および経常利益のFY18.3Q(9M)実績が、有価証券利息の増加などにより期初想定を上回って推移したため、上方修正。

2018年度連結業績予想についてご説明いたします。

経常収益は、主に生命保険事業において、第3四半期9カ月間の実績が
期初想定を下回って推移したことにより、下方修正しました。

また、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益は、主に生命保険事業に
おいて、第3四半期9カ月間の実績が期初想定を上回って推移したことにより、
上方修正しました。

生命保険事業の経常利益および当期純利益が期初想定を上回ったのは、
一般勘定におけるその他有価証券に係る減損損失の計上があったものの、解約の
増加にともない責任準備金負担が期初想定を下回ったこと、および一般勘定における
その他有価証券に係るヘッジを目的としたデリバティブ取引の損益が期初想定を
上回ったことなどによります。

なお、2018年度の配当予想については、前年度より1株当たり2.5円増配の
62.5円から変更ありません。

続きまして、ソニー生命の2018年12月末MCEVおよびESRをご説明いたします。

スライド27をご覧ください。

ソニー生命の2018年12月末MCEV およびESR

2018年3月末を除く数値については、一部簡易な計算を実施しております。
計算の妥当性については第三者の検証を受けていないことに十分ご注意ください。

※当パートにおいては、数値、比率ともに表示単位未満は四捨五入で表示。

(億円)	18.3末	18.9末	18.12末	増減 対18.3末	増減 対18.9末
MCEV	16,332	17,153	16,646	+315	△506
修正純資産	17,861	15,600	18,241	+380	+2,641
保有契約価値	△1,529	1,553	△1,594	△65	△3,147

(億円)	FY17.4Q (3M)	FY18.1Q (3M)	FY18.2Q (3M)	FY18.3Q (3M)	FY18.3Q (9M)
新契約価値	212	219	226	237	682
新契約マージン	6.1%	7.1%	6.9%	7.3%	7.1%

◆ MCEV増減要因

- ・円金利の低下などにより、前四半期末に比べ506億円の減少。

◆ 新契約価値および新契約マージン

- ・FY18.3Q(3M)の新契約価値は、着実な新契約獲得により、237億円。
- ・新契約マージンは、3Q(3M)を通じてドル金利の水準が2Q(3M)よりも高かったことなどにより、FY18.2Q(3M)に比べ0.4ポイント上昇。

(注) 2018年6月末以降のMCEVの計算は、2018年3月末の前提条件から、主に経済前提と解約・失効率をアップデート。

(注) 新契約価値および新契約マージンは、各月の新契約を各月末の経済前提で評価し、2018年3月末に実施した保険リスク計測手法等の見直しを2018年度より反映。なお、保険リスクの計測手法等の見直しについては、「2017年度連結業績およびソニー生命の2018年3月末MCEV【速報】」などをご参照ください。

※国債レートやイールドカーブについては、P.41-44参照。

ソニー生命のMCEVは、円金利の低下などにより、前四半期末に比べ506億円減少し、1兆6,646億円となりました。

2018年度第3四半期3カ月間の新契約価値は、着実な新契約獲得により、237億円となりました。

また、新契約マージンは、当四半期3カ月間を通じてドル金利の水準が前四半期3カ月間よりも高かったことなどにより、0.4ポイント上昇し、7.3%となりました。

次のスライドをご覧ください。

(億円)	18.3末	18.9末	18.12末
保険リスク	4,975	4,887	5,139
市場関連リスク	3,806	4,076	3,853
うち金利リスク	2,753	3,007	2,641
オペレーショナルリスク	310	330	319
カウンターパーティリスク	26	27	29
分散効果	△1,820	△1,878	△1,859
経済価値ベースのリスク量	7,297	7,441	7,480

(億円)	18.3末	18.9末	18.12末
MCEV+フリクショナル・コスト	16,558	17,316	16,857
ESR	227%	233%	225%

- ◆ 経済価値ベースのリスク量は、保険リスクの増加などにより、前四半期末に比べ39億円増加し、7,480億円。
- ◆ ESRは、MCEVの減少により、前四半期末に比べ7ポイント低下し、225%。

(注) 経済価値ベースのリスク量とは、ソニー生命が保有する各種リスク（保険リスク、市場関連リスクなど）を、市場整合的な方法で総合的に評価したリスク総量。

(注) 経済価値ベースのリスク量の測定においては、1年VaR99.5%水準とし、内部モデルを採用。

(注) 金利リスクは、市場関連リスク内での分散効果考慮前のリスク量。

(注) ESRは「(MCEV+フリクショナル・コスト) / 経済価値ベースのリスク量」。

経済価値ベースのリスク量は、保険リスクの増加などにより、前四半期末に比べ39億円増加し、7,480億円となりました。

ESRは、前四半期末から7ポイント低下し、225%となりました。

なお、2018年度第3四半期9カ月間の連結修正ROEは、5.1%となりました。詳細についてはスライド45から47をご参照下さい。

以上で説明を終了いたします。
ありがとうございました。

参考情報



その他トピックス

◆ ソニー銀行における、ソニー生命による住宅ローン取扱い状況

FY18.3Q(9M)の住宅ローン新規融資実行金額の11%

2018年12月末の住宅ローン残高の20%

※銀行代理業務取扱い開始：2008年1月



◆ ソニー損保における、ソニー生命による自動車保険取扱い状況

FY18.3Q(9M)の新規自動車保険契約件数の5%

※自動車保険取扱い開始：2001年5月



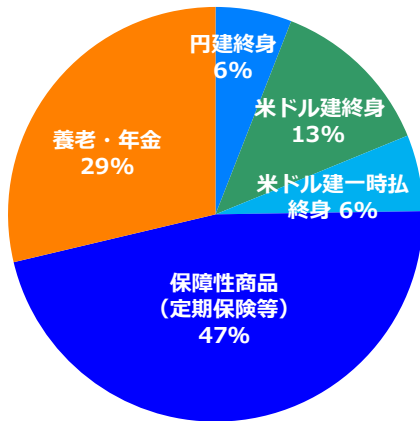
◆ 2018年度第3四半期以降の主な取組み

2018年10月1日	銀行	【新商品】住宅ローン新商品「固定セレクト住宅ローン」およびあらたな疾病保障特約付き団体信用生命保険の取扱いを開始
2018年10月15日	損保	【新商品】インターネット専用の火災保険の販売を開始
2018年11月30日	ベンチャー キャピタル	成長期待国への貸付型クラウドファンディングを展開するクラウドクレジット株式会社に出資
2018年12月12日	生保	入院給付金・手術給付金の簡易請求の取扱範囲拡大
2019年1月31日	介護	介護付有料老人ホーム「ソナーレ」シリーズ5棟目を東京都新宿区に新設することを発表 ※2020年春開設予定

商品種類別新契約年換算保険料

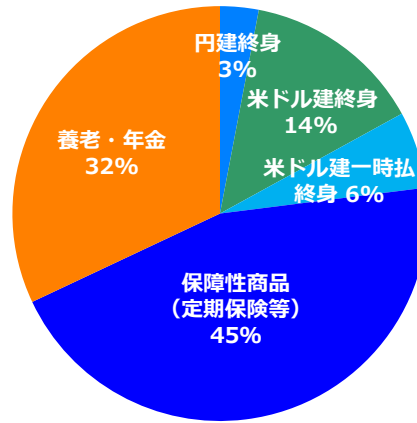
FY17 (通期)

730億円



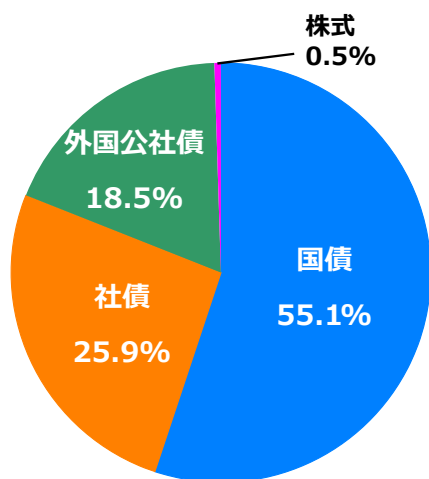
FY18.3Q (9M)

570億円

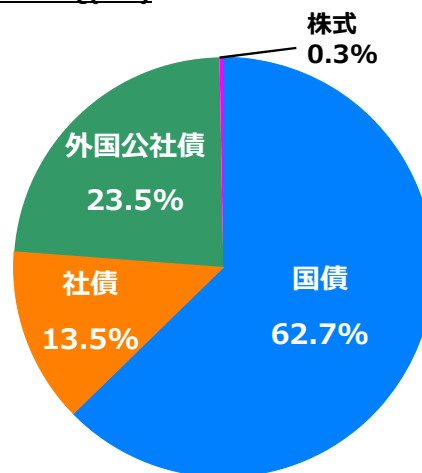


一般勘定資産における有価証券の購入

FY17 (通期)



FY18.3Q(9M)



(注1) 社債には、財投機関債、政府保証債を含む。

(注2) 上記の表は対象期間の購入金額を100%とした資産配分（子関連出資・政策投資を除く）。

一般勘定資産の内訳

(億円)	18.3末		18.12末	
	金額	割合	金額	割合
公社債	72,811	86.3%	76,379	85.4%
株式	384	0.5%	292	0.3%
外国公社債	3,665	4.3%	5,034	5.6%
外国株式等	303	0.4%	242	0.3%
金銭の信託	2,705	3.2%	2,676	3.0%
約款貸付	1,894	2.2%	1,956	2.2%
不動産 ^(注)	923	1.1%	911	1.0%
現預金・コールローン	408	0.5%	554	0.6%
その他	1,291	1.5%	1,410	1.6%
合計	84,388	100.0%	89,459	100.0%

(注) 「不動産」については、土地・建物・建設仮勘定を合計した金額を計上。

<資産運用状況>

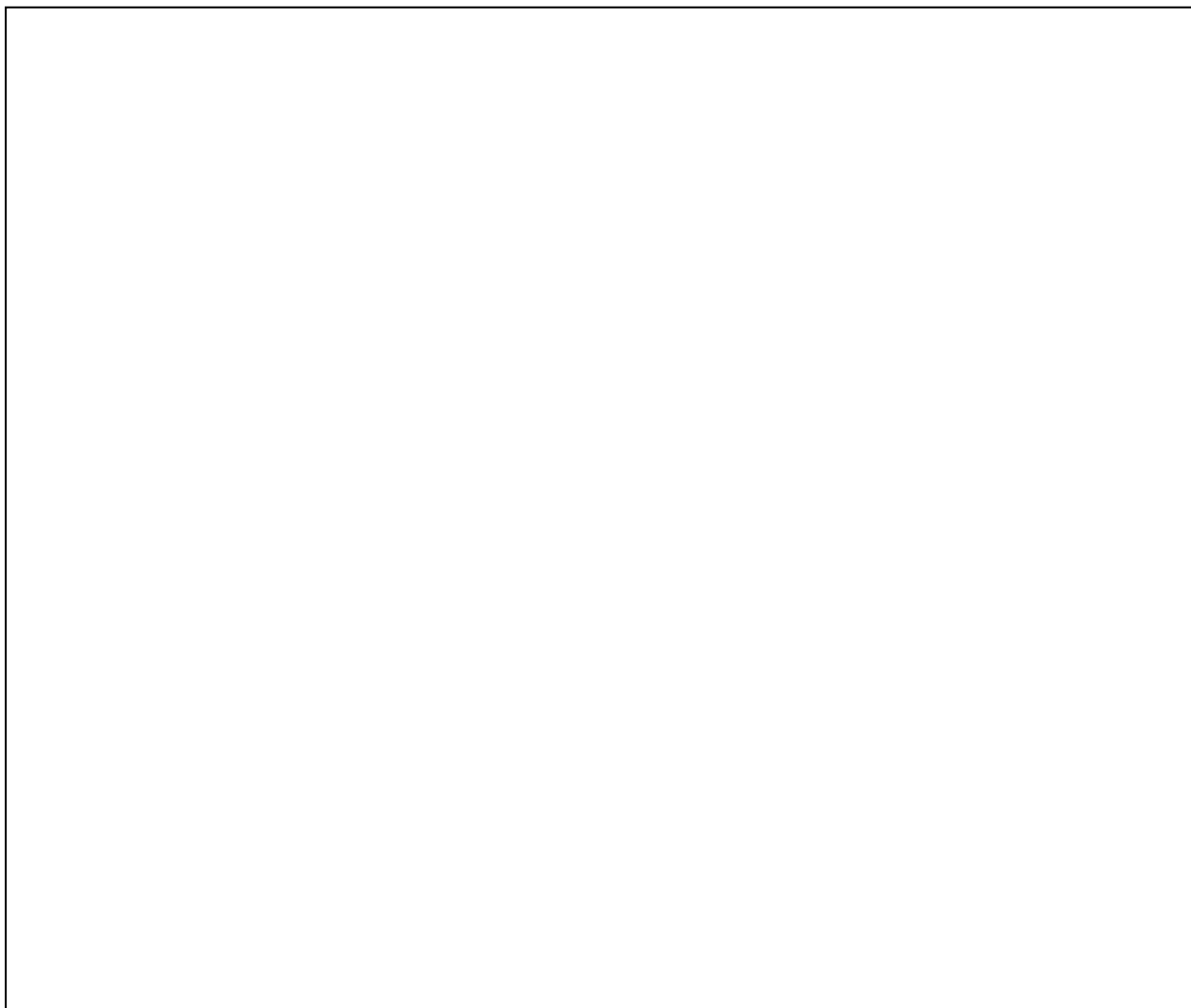
金利リスクの低減を目的として、保険契約の持つ長期の負債特性に合わせて超長期債の購入を継続

↓

〔債券のDuration〕
 2017.3末 21.3年
 2018.3末 21.4年
 2018.12末 21.3年

- 「金銭の信託」は主に公社債を中心に運用
- 一般勘定資産における公社債（金銭の信託で運用されているものを含む）の実質的な構成比

2017.3末・・・90.1%
 2018.3末・・・89.5%
 2018.12末・・・88.4%



有価証券の時価情報

売買目的有価証券以外の有価証券のうち、時価のあるもの

(億円)

区 分	17.3末			18.3末			18.12末		
	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益
満期保有目的の債券	60,686	75,142	14,455	64,679	80,506	15,826	67,112	83,207	16,095
責任準備金対応債券	2,773	3,033	259	4,019	4,368	348	6,036	6,474	438
その他有価証券	8,965	10,699	1,733	9,219	10,911	1,691	9,651	11,237	1,586
公社債	8,526	10,133	1,607	8,470	10,021	1,550	8,673	10,177	1,504
株式	136	270	133	136	306	169	105	203	97
外国証券	300	291	△8	610	581	△29	871	853	△17
その他の証券	1	3	1	1	2	1	1	2	1
合計	72,425	88,875	16,449	77,919	95,786	17,867	82,799	100,918	18,119

(注) 本表には、金銭の信託のうち売買目的有価証券以外のものを含む。

売買目的有価証券の評価損益

(億円)

17.3末		18.3末		18.12末	
BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益
20	△1	-	△0	11	△3

ソニー生命の利配収入内訳

(百万円)

	FY17.3Q(9M)	FY18.3Q(9M)	前年同期比
現預金	0	0	+ 145.4%
公社債	93,504	97,082	+ 3.8%
株式	380	377	△ 0.9%
外国証券	10,479	14,538	+ 38.7%
その他の証券	127	293	+ 130.9%
貸付	4,957	5,124	+ 3.4%
不動産	8,048	6,578	△ 18.3%
その他	290	409	+ 40.9%
合計	117,788	124,403	+ 5.6%

ソニー生命のキャピタル損益内訳

(百万円)	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)
キャピタル費用	25,809	14,420
売買目的有価証券運用損	-	293
有価証券売却損…(3)	0	34
有価証券評価損…(4)	-	4,026
金融派生商品費用	23,990	784
うち変額保険に係るヘッジ損…(1)	13,515	△1,696
うちその他有価証券に係るヘッジ損…(2)	5,877	△1,692
うち米ドル建保険関係の為替差損…(5)	3,445	4,141
為替差損	-	-
その他キャピタル費用	1,819	9,280
うち米ドル建保険関係の 為替変動に係る責任準備金等繰入額…(5)	1,155	9,280

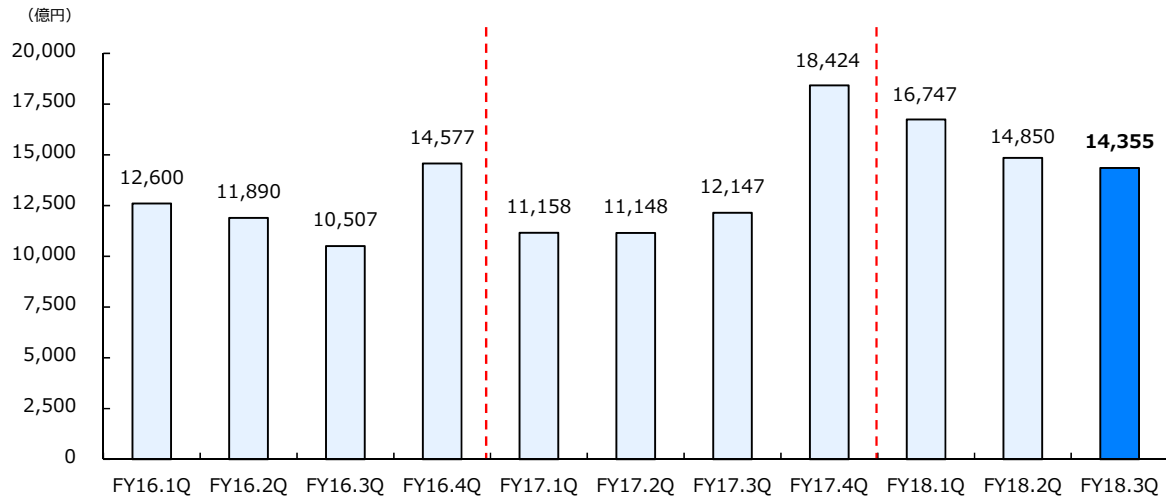
(百万円)	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)
キャピタル収益	2,851	17,726
売買目的有価証券運用益	47	-
有価証券売却益…(3)	0	4,581
金融派生商品収益	-	-
為替差益	2,804	13,145
うち米ドル建保険関係の 為替差益…(5)	2,189	13,036
その他キャピタル収益	-	-
キャピタル損益	△22,958	3,306

(注) 売買目的有価証券運用益(損)、金融派生商品収益(費用)、為替差益(差損)は、それぞれ相殺後の金額を計上。

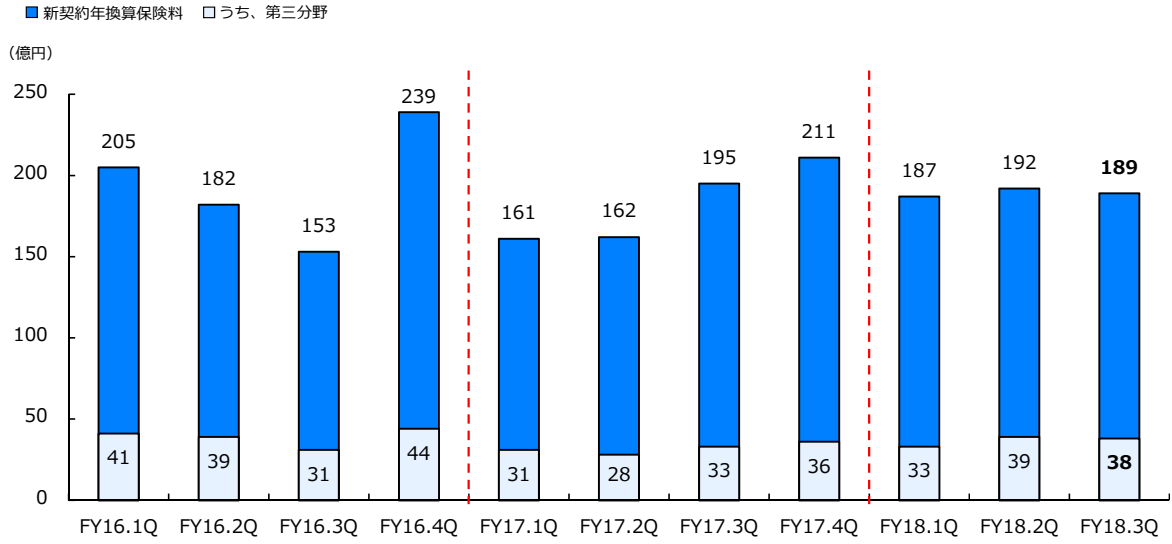
●主な項目のキャピタル損益(純額)

(百万円)	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)
(1)変額保険に係るヘッジ損益	△13,515	1,696
(2)その他有価証券に係るヘッジ損益	△5,877	1,692
(3)有価証券売却損益	0	4,547
(4)有価証券評価損	-	△4,026
(5)米ドル建保険関係損益	△2,411	△384

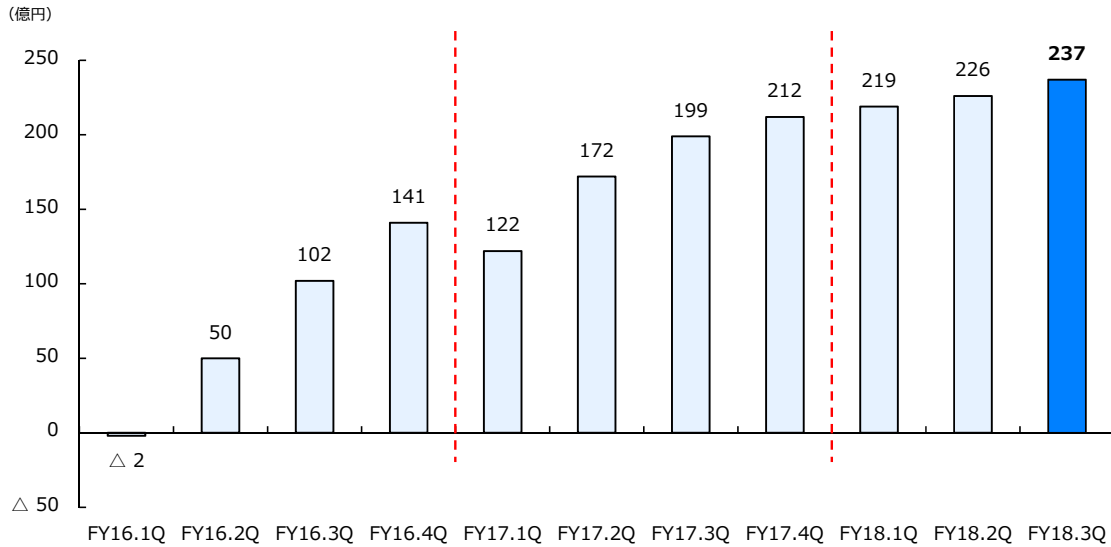
新契約高の四半期（3カ月）ごとの推移（個人保険+個人年金保険）



新契約年換算保険料の四半期（3カ月）ごとの推移（個人保険+個人年金保険）



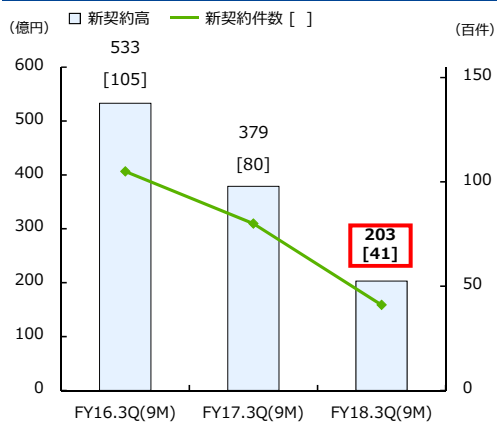
新契約価値の四半期（3カ月）ごとの推移



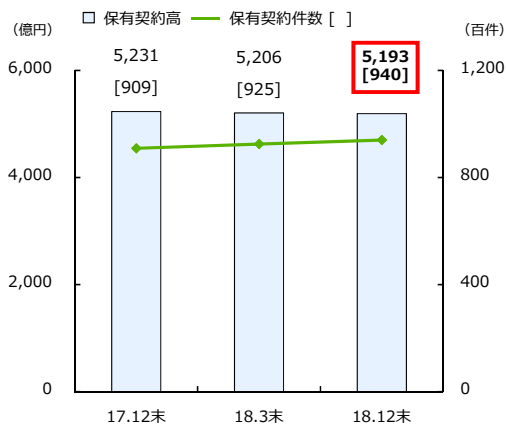
(注) 新契約価値は、各月の新契約を各月末の経済前提で評価。2018年3月末に実施した保険リスク計測手法等の見直しを2018年度より反映。

ソニーライフ・エイゴン生命の新契約高及び保有契約高

新契約高・件数



保有契約高・件数

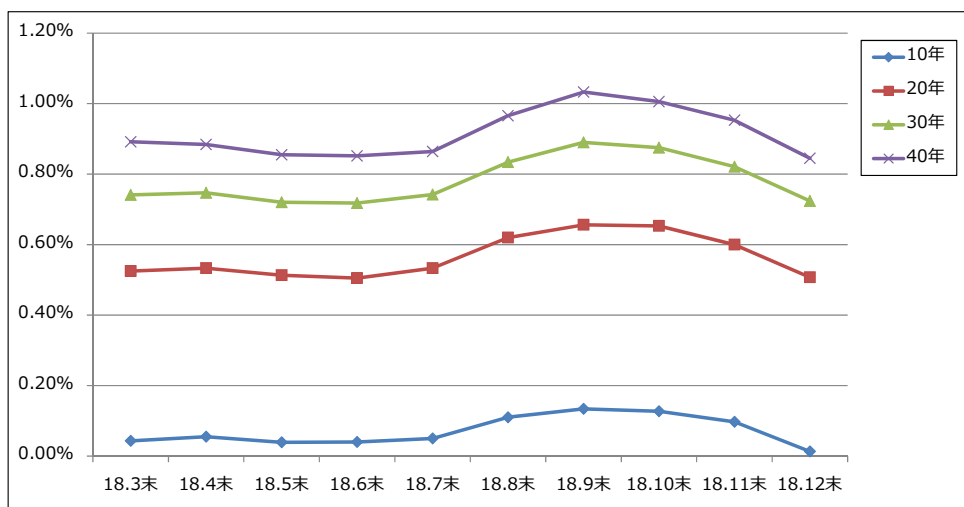


ソニーライフ・エイゴン生命およびSA Reinsuranceの四半期純利益 (△損失)

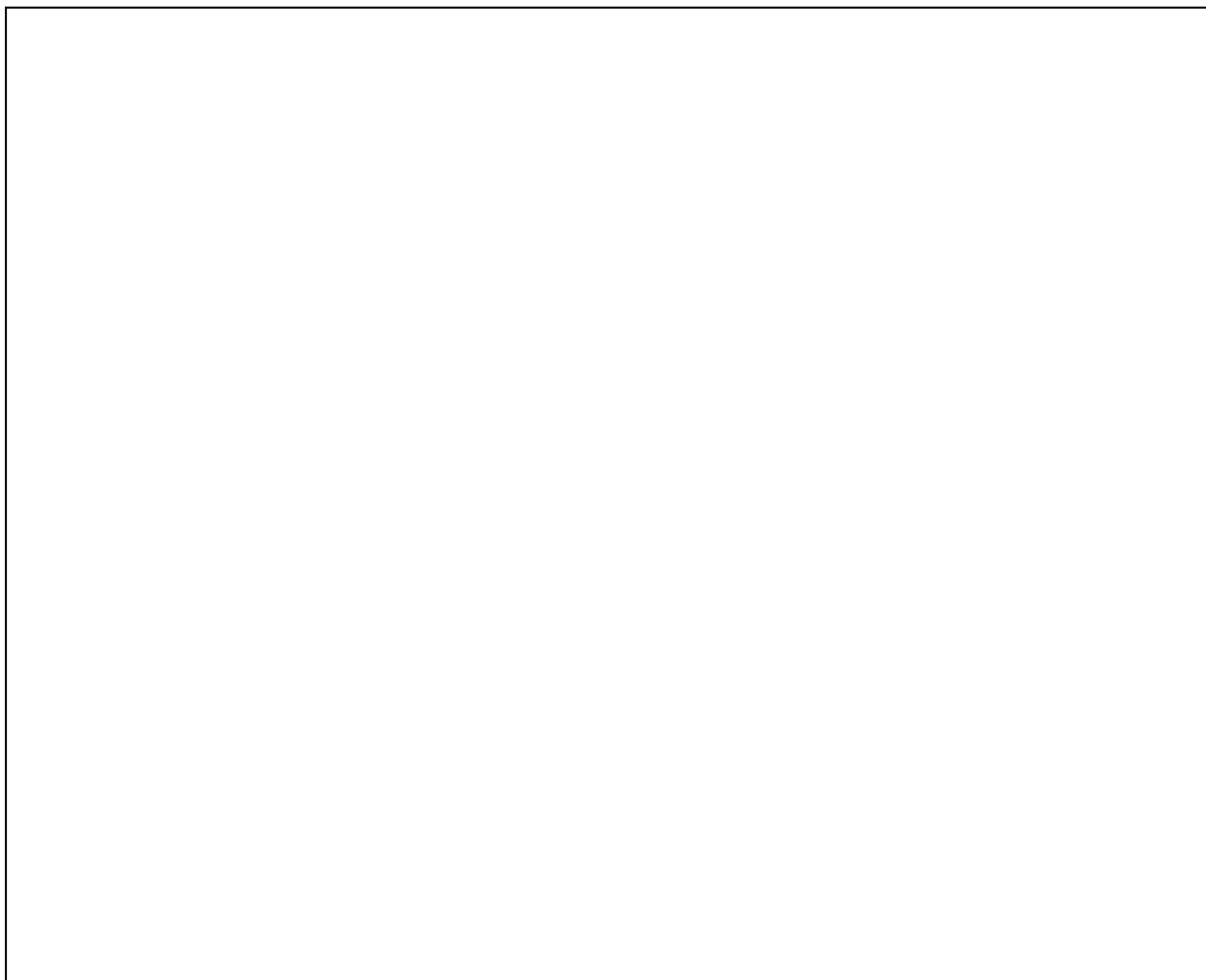
	(億円)	FY17.3Q(9M)	FY18.3Q(9M)	前年同期差
ソニーライフ・エイゴン生命		△33	△26	+7
SA Reinsurance		△2	17	+20

(注) ソニーライフ・エイゴン生命とSA Reinsuranceは、ソニー生命とエイゴン・インターナショナルの折半出資 (50:50) による合併会社であり、SFHの持分法適用関連会社。
SA Reinsuranceの業績数値は、米国会計原則に準拠。SFHの親会社株主に帰属する四半期純利益には上記の金額に対する持分相当 (50%) を反映。

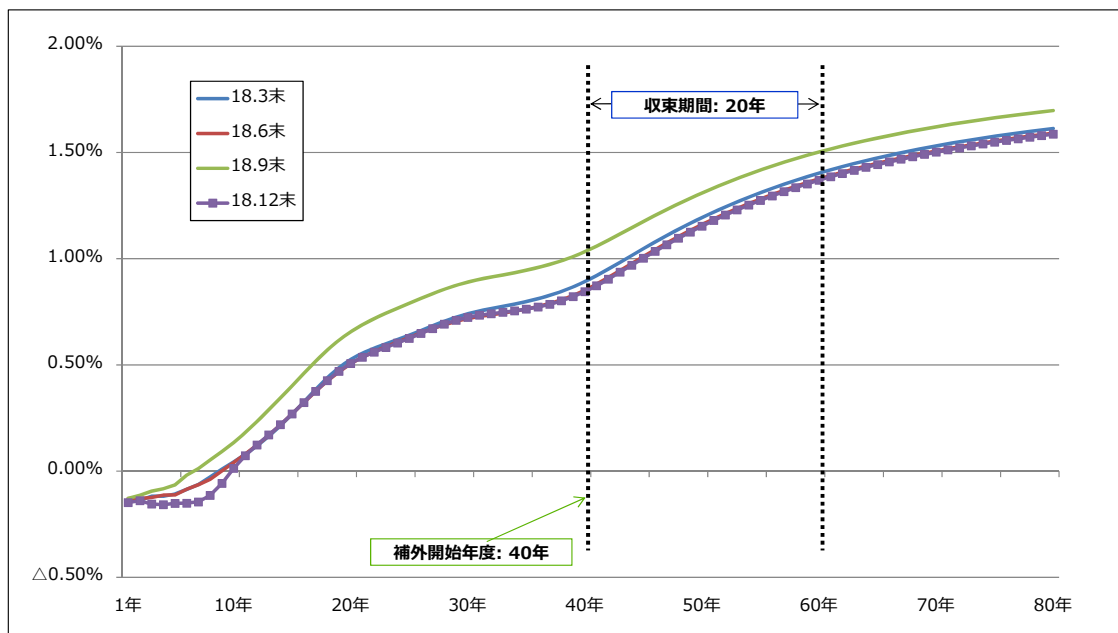
日本国債レートの推移 (パーセント)



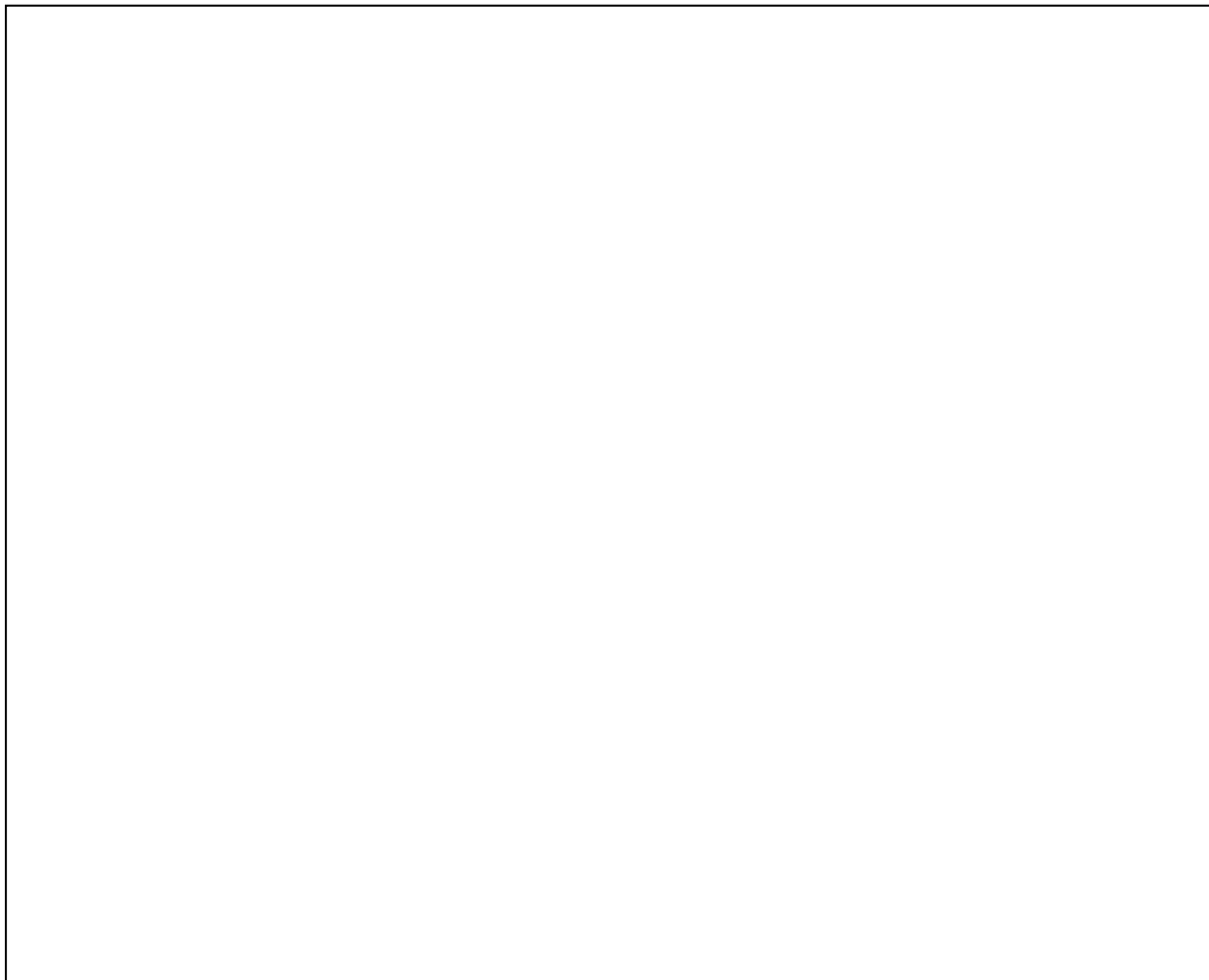
	18.3末	18.4末	18.5末	18.6末	18.7末	18.8末	18.9末	18.10末	18.11末	18.12末
10年	0.04%	0.06%	0.04%	0.04%	0.05%	0.11%	0.13%	0.13%	0.10%	0.01%
20年	0.53%	0.53%	0.51%	0.51%	0.53%	0.62%	0.66%	0.65%	0.60%	0.51%
30年	0.74%	0.75%	0.72%	0.72%	0.74%	0.83%	0.89%	0.88%	0.82%	0.72%
40年	0.89%	0.88%	0.86%	0.85%	0.86%	0.97%	1.03%	1.01%	0.95%	0.85%



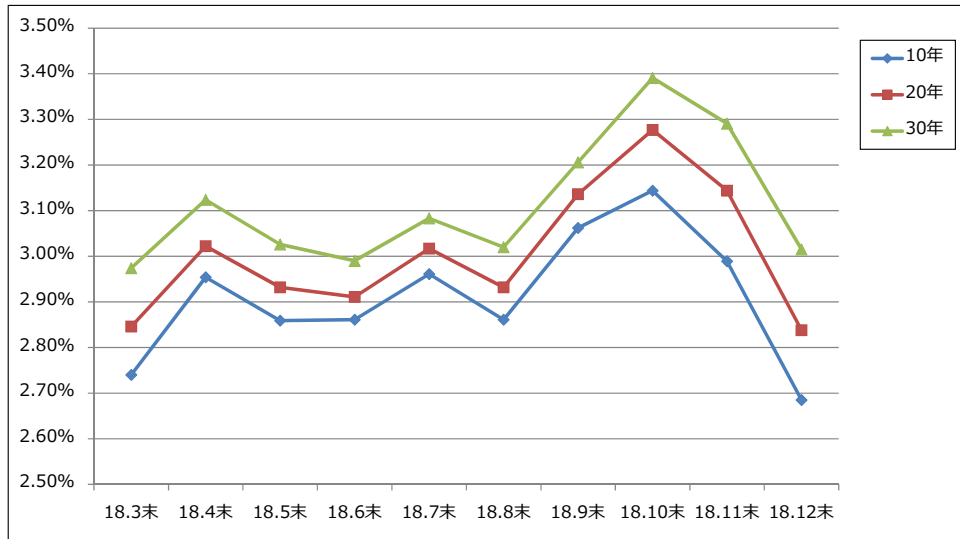
リスクフリーレートの推移（日本円/パーセント換算）



* 上記のリスクフリーレートは、60年目のフォワードレートが終局金利（3.5%）に収束するように、Smith-Wilson法により補外。



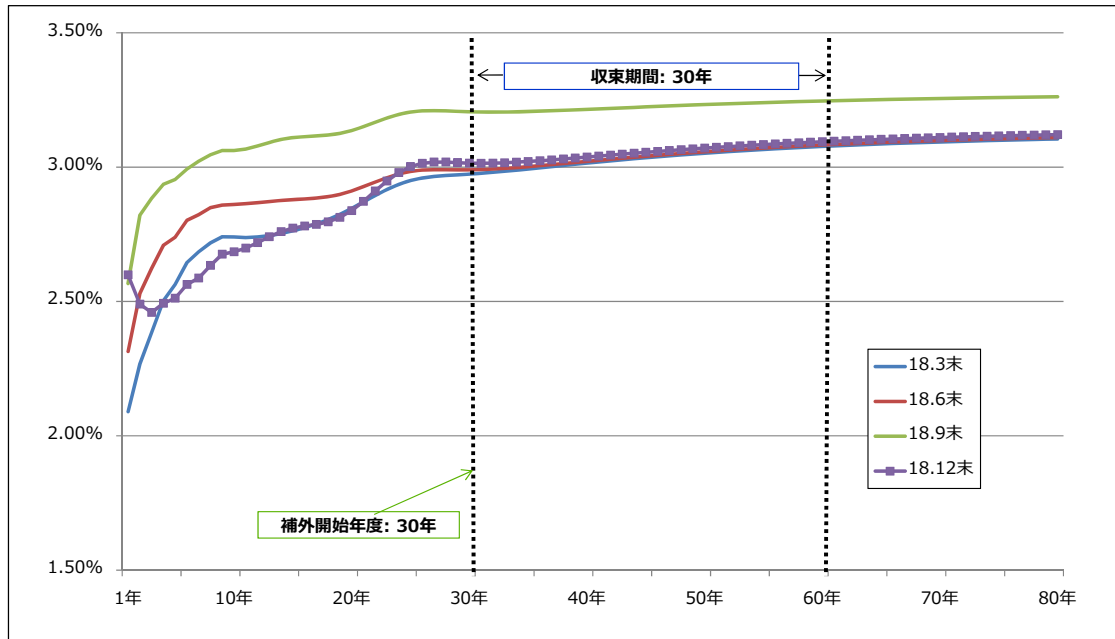
米国債レートの推移（パーセント）



	18.3末	18.4末	18.5末	18.6末	18.7末	18.8末	18.9末	18.10末	18.11末	18.12末
10年	2.74%	2.95%	2.86%	2.86%	2.96%	2.86%	3.06%	3.14%	2.99%	2.69%
20年	2.85%	3.02%	2.93%	2.91%	3.02%	2.93%	3.14%	3.28%	3.14%	2.84%
30年	2.97%	3.12%	3.03%	2.99%	3.08%	3.02%	3.21%	3.39%	3.29%	3.02%



リスクフリーレートの推移 (米ドル/パーセント換算)



* 上記のリスクフリーレートは、60年目のフォワードレートが終局金利（3.5%）に収束するように、Smith-Wilson法により補外。



連結修正ROEの内訳

	FY2017 (12M)	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)
連結修正ROE	6.1%	4.5%	5.1%
(ソニー生命) コアROEV *	5.9%	4.2%	4.8%
(ソニー損保) 修正ROE	16.1%	12.5%	14.3%
(ソニー銀行) ROE	5.5%	3.9%	5.3%

* FY2017およびFY17.3Qは、ソニー生命における保険リスクの計測手法などの見直しの影響を含みません。

連結修正利益および連結修正資本の内訳

修正利益 (分子)

ソニーフィナンシャルグループ (連結) (億円)	FY2017	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)
修正利益(連結)	988	708	908

ソニー生命 (単体) (億円)	FY2017	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)
新契約価値 *1	704	492	682
保有契約価値からの貢献 *1	163	128	107
修正利益	867	620	789

ソニー損保 (億円)	FY2017	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)
当期 (四半期) 純利益	48	36	52
異常危険準備金繰入額 (税後)	24	18	19
価格変動準備金繰入額 (税後)	0	0	0
修正利益	73	55	72

ソニー銀行 (連結) (億円)	FY2017	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)
親会社株主に帰属する当期 (四半期) 純利益	47	33	46

修正資本 (分母)

ソニーフィナンシャルグループ (連結) (億円)	FY2017	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)
修正資本 (連結)	16,076	15,922	17,735

ソニー生命 (単体) (億円)	FY2017	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)
①前年度末MCEV	14,410	14,410	16,331
②配当額	231	231	262
③当年度(当四半期)末MCEV *2*3	15,365	15,095	16,646
修正資本 (①-②+③)÷2	14,772	14,637	16,357

ソニー損保 (億円)	FY2017	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)
①純資産の部の期中平均額	331	316	353
②異常危険準備金 (税後) の期中平均額	150	144	170
③価格変動準備金 (税後) の期中平均額	1	1	1
修正資本 (①+②+③)	482	461	524

ソニー銀行 (連結) (億円)	FY2017	FY17.3Q (9M)	FY18.3Q (9M)
修正資本 (純資産の部の期中平均額)	851	843	873

*1: FY17.3QおよびFY18.3Qは、計算の妥当性について第三者の検証を受けていないことに十分ご注意ください。

*2: 計算の妥当性について第三者の検証を受けていないことに十分ご注意ください。

*3: FY2017およびFY17.3Qは、ソニー生命における保険リスクの計測手法などの見直しの影響を含みません。

(注) 本ページに記載している数値は、全て表示単位未満を切捨てて表示しています。そのため他のパートで表示している数値と一部異なることがあります。

連結修正ROEの算式

保険事業や銀行事業などグループ各社の業態が異なるため、各事業ごとに、修正利益および修正資本に基づく「修正ROE」を算出し、企業価値や資本効率の的確な把握に努める。グループ各社の修正ROEの算式は以下のとおり。

ソニーフィナンシャルグループ *			
	ソニー生命 コアROEV	ソニー損保 修正ROE	ソニー銀行 ROE
分子 (修正利益)	新契約価値 + 保有契約価値からの貢献 ①	+ 当期純利益 + 異常危険準備金繰入額(税後) + 価格変動準備金繰入額(税後) ②	+ 親会社株主に帰属する 当期純利益 ③
分母 (修正資本)	(前年度末MCEV - 配当額 + 当年度末MCEV) ÷ 2 ④	+ 以下の期中平均値 (純資産の部 + 異常危険準備金 (税後) + 価格変動準備金 (税後)) ⑤	+ 純資産の部の期中平均値 ⑥

* グループの連結修正ROE = 連結修正利益 ÷ 連結修正資本
 連結修正利益 = ① + ② + ③
 連結修正資本 = ④ + ⑤ + ⑥



お問い合わせ先：
ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社 IR部
TEL : 03-5290-6500 (代表)

